

第12回臨床教科教育学セミナー2013のご案内

臨床教科教育学学会会長 西川 純
第12回セミナー実行委員長 水落 芳明

- 1 **主催** 臨床教科教育学学会
- 2 **後援 (予定)** 文部科学省, 新潟県教育委員会, 上越市教育委員会
- 3 **期日** 平成26年1月11日 (土)
- 4 **会場** 上越教育大学 (〒943-8512 上越市山屋敷町1番地)
- 5 **日程 (予定 発表人数等により変更する場合があります。)**

8時30分～	9時00分	受付
9時00分～	11時40分	自由研究発表
11時40分～	12時00分	総会 (301教室)
12時00分～	13時00分	昼食, 休憩 (学生食堂が営業しています。)
13時00分～	14時30分	シンポジウム (上越教育大学301教室)
14時30分～	14時40分	休憩
14時40分～	16時00分	自由研究発表
16時00分～	16時10分	閉会行事 (各会場で)
16時30分～	18時00分	懇親会 (学生食堂)
- 6 **シンポジウム** 「理論と実践の往還 これまでとこれから」
シンポジスト
 - ・ 栢森麻代 様 (文部科学省高等教育局大学振興課教員養成企画室専門官 (併) 教職大学院係長)
理論と実践の往還について、国の施策を視点としてお話しいただきます。
 - ・ 松本 修 様 (玉川大学教職大学院教授・教員養成評価機構評価規準検討委員会委員長)
大学評価機構等でのご経験を基に、今後の教員養成を視点としてお話しいただきます。
 - ・ 久保田善彦 様 (宇都宮大学教育学部教授・前日本理科教育学会編集事務局・元臨床教科教育学会誌編集事務局)
様々な学会での論文審査や実務家教員としての経験を視点として、お話しいただきます。
 - ・ 西川 純 (上越教育大学教職大学院教授・臨床教科教育学学会会長)
本学会設立の意図やこれまでの経緯を基に今後の展望等をお話しします。
- 7 **発表申し込み**
 - (1) 研究発表は、自由研究発表のみとします。
発表者は、原則的に会員となります。会員については、本年度までの学会費を11月30日(土)までに納入していることが要件です。新たに学会に入会し発表される方は、発表申し込みと並行して次の臨床教科教育学会事務局に入会手続きをお取り下さい。
本学会ホームページ (<http://www.rinkyokyo.com/>) 上にある“入会手続き”に、入会手続きの詳細を記載しています。
 - (2) 自由研究発表 及び 発表予稿集の原稿送付方法
発表を希望される方は、発表の申し込みと同時に発表予稿集の原稿も送付してください。申し込みの書式は自由ですが以下の事項をお書きください。発表予稿集の原稿の形式は「14 発表予稿集の原稿の形式」をご参照ください。11月30日(土)必着にて電子メールでご連絡ください。なお、発表時間等に関するご要望等については、対応できませんのでご了承ください。
 - ①「発表者氏名」
 - ②「発表題目」
 - ③「発表者所属」
 - ④「発表者連絡住所」

- ⑤「発表者連絡先電話番号」
- ⑥「発表者連絡電子メール」
- ⑦「懇親会参加の有無」
- ⑧「発表原稿」は添付してください。(ワードまたは一太郎)

※ 当日は発表15分、質疑5分(移動時間含む)で行います。

発表申し込み・発表予稿集の原稿送付先

電子メールアドレス: kiryu@juen.ac.jp 上越教育大学 桐生 徹

件名: 発表申込・臨床教科教育学セミナー

8 参加申し込み方法

参加を希望される方は、12月9日(月)までに電子メールでご連絡ください。書式は自由ですが、以下の事項をお書きください。(当日受付も可能ですが、人数把握のため、できるだけ、〆切日までに申し込んでください。)

- ①「参加者氏名」
- ②「参加者所属」
- ③「参加者連絡住所」
- ④「参加者連絡先電話番号」
- ⑤「参加者連絡電子メール」
- ⑥「懇親会参加の有無」
- ⑦「臨床教科教育学学会員所属の有無」

参加申し込み

電子メールアドレス: kiryu@juen.ac.jp 上越教育大学 桐生 徹

件名: 参加申込・臨床教科教育学セミナー

9 参加費

大学生: 無料(資料なし)

資料を希望される場合は資料代1,000円。

学会員: 1,000円

(平成25年11月30日までに学会費等を納入し、入会手続きが完了していること。)

非学会員(大学院生, 一般): 2,000円

懇親会費: 3,000円

10 派遣申請

派遣申請書をお求めの方は、「派遣者氏名」、「宛先」を明記の上、セミナー2013実行委員会まで電子メールか郵送のいずれかにてご連絡ください。なお、こちらで旅費等の負担はできません。

11 問い合わせ先

臨床教科教育学セミナー2013 実行委員会 電子メール: kiryu@juen.ac.jp

詳細が決定し次第、最新情報をホーム・ページ上に掲載いたします。

<http://www.rinkyokyo.com/>

12 交通・宿泊案内

(1) 交通機関

JR利用の場合は、信越本線の高田駅または直江津駅から「教育大学行き」のバスがでています。

バスの時刻表: 頸城自動車ホームページ <http://www.marukei-g.com/kubikibus/>

タクシーですと「高田駅」から約10分、「直江津駅」から約15分(約2,000円)かかります。

(2) 宿 泊

JR直江津駅および高田駅周辺に複数のビジネスホテルがあります。各自でご予約をお願いします。

13 セミナー2013実行委員会

〒943-8512 上越市山屋敷町1番地 上越教育大学

実行委員長 水落芳明

実行委員 赤坂真二・桐生 徹・瀬戸 健

坂野直樹・高橋一哉・外山良史・水野大輔・茂木良介・山上 純

14 発表予稿集の原稿の形式

(原稿例)

〇〇条件の提示による〇〇時の〇〇概念の意識変容に関する研究

〇臨 床介 (〇〇大学大学院)
投稿 例子 (〇〇大学)
(rinkyokyo@rinkyokyo.com)

要約

本研究の目的は、次の3点である。第1は、各教科における〇〇を取り入れた授業についての教師の意識を明らかにすることである。第2は、既習前に〇〇条件 (〇〇的〇〇を生じさせる条件) の提示による〇〇効果, 〇〇効果 (〇〇度と〇〇的影響) を意識変容から検討することである。第3は、既習前に〇〇条件を提示することが、〇〇として機能するか検討することである。その結果、次のことが明らかになった。

キーワード: 学び合い, 人間関係, 意識変容

I 問題の所在

最近の〇〇教育では、基礎基本の定着を図るとともに、主体的に問題解決できる能力が求められている。特に後者の点については、学習者に〇〇がおかれる〇〇的〇〇が〇〇される授業を構築しなければならない。現在まで、〇〇的〇〇が生じることにより〇〇的〇〇がなされ、〇〇効果につながる例が多く報告されている。〇・〇〇(1994)は、〇〇概念を通して〇〇提示における概念変容の研究を行った¹⁾。それによると、事象をうまく〇〇できないときに〇〇的〇〇が生じ、その〇〇のために概念変容が起こると捉えている。つまり、概念〇〇〇〇である。

けで、番号を入れる。

II 研究目的

本研究では、〇〇を解明することを目的とする。

引用文献

- 1) 〇〇・〇〇:「〇〇提示における生徒の概念の変容—〇〇を事例とした〇〇概念に関して—」, 〇〇学会研究紀要, Vol. 〇〇, 1994.

III 研究方法

注意事項

1. 原稿はA4版2枚とする。
2. タイトルはゴシック体14pt太字で、中央寄せにする。
3. 研究者名(所属校名)は明朝体12ptで右寄せにする。共同研究者、連絡先のアドレスについても同じ。
4. 要約は簡潔にまとめ、1行開けてキーワードを5語以内とする。1行開けて見出しを書き始める。
5. 見出しはゴシック体10.5pt太字で、前文との間を1行開ける。
6. 本文は2段組、文字数22字、行数43行とし、明朝体10.5ptで仕上げる。
7. 余白は上下25mm、左右20mmとする。
8. 各引用箇所には、1), 2), 3)の順に右上付

注意事項

著者名:「論文名」, 雑誌名, 巻, 頁, 発行機関
または発行所, 発行年.
著者名:「単行本」, 頁, 発行所, 発行年.